

(別紙1)本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	飯島 祥二		所 属	観光産業科学部観光科学科	
職 名	教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成25年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	基礎学力の育成と実践可能な理論的枠組みの涵養のため、以下の実習を実施する。演習における教育内容の充実とフィールドでの調査研究の実施、(1)まちづくりの実践的調査研究、(2)観光資源の調査研究、(3)夏季休業中:観光資源の調査方法の実習(予定)などを実施する。これらの教育的調査研究は卒論作成に関わり、教育的効果が期待される。研究室における具体的なインストラクションを行うために、研究室の機器等の整備を行い、円滑に指導を行う。	0.20	概略:就職活動等にも注力させながら、観光現象の科学的分析手法の学修を推進した。 (1)まちづくりの実践的調査研究、「首里地域」および「国際通り」における巡検と調査を実施。 (2)観光資源の調査研究、「レパトリーグリッド発展手法等の運用を実践的に理解させ、データをもとに分析を行った。 (3)夏季休業中:観光資源の調査方法の実習。2013年10月に3泊の調査巡検旅行を実施。京都、大阪において歴史的町並みや各観光資源に関わる調査手法を現地にて教授。京都府立大学と共同で実施した。また、成果として学生に学会発表のやり方を教授し、6月には発表を行った。また、この実習は進路指導にも有益であった。	
研究	0.40	研究計画(1)倉敷・飛騨高山の街路景観評価研究(首都大・東工大との共同研究)、(2)沖縄における都市型観光の観光資源管理に関わる調査研究(首都大・東工大との共同研究)(3)沖縄における光環境の地域特性の調査研究の実施 研究発表等(1)審査(査読)付論文2編の発表(予定)(2)国際学会での発表論文の公表(予定)(3)その他	0.50	概略:審査付論文7本、審査無2本を発表(査読中を含む)。 研究計画(1)に関し、査読済み論文2編を公表した。直井岳人・十代田朗・飯島祥二(2013年4月)、「観光地としての歴史的町並みにおける地元の生活の様相:訪問客のまなざしの対象と、それに対する住民の評価」都市計画論文集、Vol.48, No.1, 82-87(査読済)ほか1篇 研究計画(2)に関しては 査読済み論文1篇と査読なし1篇、Naoi, T., Soshiroda, S., Iijima, S., & Shimizu, T.(2013年10月)“Local students’ perception of spaces for tourists and locals in a shopping district: photo-based research” 5th advances in Tourism Marketing Conference, Faro, Portugal(査読済)ほか1篇。 研究計画(3)に関しては査読済み2編と査読無1篇、飯島祥二、直井岳人、稲垣卓造、(2014年)「那覇市国際通りの色彩環境—各都市との比較色彩環境研究を通して—」、総合観光学会誌(査読中)他2篇。 その他、査読済み2篇、Ogawa, M., Naoi, T., Iijima, S.(2014年)How the presence of people in photographs affects potential visitors’ evaluations 7th World Conference for Graduate Research in Tourism, Hospitality and Leisure, Istanbul, Turkey.(査読済)他の1篇。	
社会貢献	0.10	多様な領域での社会貢献の実施。(1)(建築学会)委員としての活動(2)観光総合学会評議員(観光総合学会)としての活動(3)武蔵野大学環境研究所客員研究員のとしての活動(4)その他の委員会の活動	0.10	概略:建築学会、観光総合学会等において貢献 (1)日本建築学会、1. 建築の質感と色彩計画小委員会委員(年数回の委員会)、都市建築の色彩測定法基準策定W.G委員・幹事(年数回の委員会)、建築材料と色彩の実態調査W.G(年数回の委員会) (2)観光総合学会評議員(年複数回) (3)武蔵野大学環境研究所客員研究員(研究所の活動にアドバイス)	
管理運営	0.10	全学委員会での活動(研究推進戦略に関する連絡会議委員、営利企業役員兼業審査委員会、短期留学プログラム実施委員会、留学生センター運営委員会、風樹館運営委員会)、学部委員会(将来計画委員会委員、施設管理・安全衛生委員会)その他の管理運営)および学科内の管理運営	0.15	概略:全学委員会等、学部・学科委員会の委員として活動する (1)全学委員会 4委員会(研究推進戦略に関する連絡会議委員、留学生センター運営委員、短期留学プログラム委員、風樹館運営委員) (2)学部委員会 1委員会(将来計画委員会) (3)学科委員会等 2委員会等(時間割、紀要編集)	
進路指導	0.10	演習における巡検や調査において、行政や企業(観光関連)で活躍されている人材との交流の実施。また、次のような活動の実施。(1)演習における、具体的な進路指導のインストラクション(2)学外での短期実習(3)サービス業の視察等	0.05	概要:演習等での進路指導を含めたような方法で進路指導を実施 (1)演習に関しては、本学の先輩や活躍中のビジネスパーソンにお話をうかがう機会を設けた。 (2)首里の街づくりNPOへの訪問等を実施 (3)(教育)の欄の実習で、視察等を実施した。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		下地 芳郎	所 属		観光産業科学部観光科学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	新たな科目である「観光政策論」について、具体的な政策例を通して学生の理解度を高める。特に2年次以上の学生には新たな観光政策の提案をさせ、行政機関への情報提供を行う。			0.30	教育に当たっては、沖縄県の海外誘客戦略や観光庁のインバウンド戦略など具体的な観光政策をもとに実践的な授業を実施した。また、授業の中で本部半島をテーマにしたブランド戦略モデルを構築しその結果は市町村関係者の政策に反映させた。		
研究	0.20	(1)沖縄ツーリズム学会を設立し、産学官連携による沖縄観光振興策の研究を行う。(2)沖縄県の観光政策について学会等で発表(最低2回以上)する			0.15	(1)学会設立については県外関係者も交えたものとするため現在準備中であり、26年度内の設立を目指している。(2)沖縄観光政策について県内外で開催された学会での発表(2回)やシンポジウムなどでの発表を行った(10回)。		
社会 貢献	0.30	琉球大学の地域連携を更に進めるため、文部科学省が進める「地(知)の拠点整備事業」の採択及び事業実施に取り組む。			0.35	地(知)の拠点整備事業について全国300件余の申請のなか琉大の提案が採択され、2度にわたるシンポジウム開催やサテライトキャンパス設置などの取り組みを行った。		
管理 運営	0.05	行政機関や産業界との連携を通して学科の円滑な運営に寄与する			0.05	沖縄県や国、市町村との連携のほか、経済同友会や経営者協会関係者等経済界との連携に務めた。		
進路 指導	0.15	1年次指導教員として修学指導、学生相談等に積極的に対応する。また、1年次を中心に結成予定の「沖縄観光研究会(サークル)」の顧問として学生の支援を行う。			0.15	教員経験が無く1年次指導教員としては不十分であったが、1年次約20名が参加するサークル「琉球ツーリズムクラブ」の立ち上げ支援及び顧問として活動を支援し、沖縄国際映画祭の公式行事における発表の機会を実現させた		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		松本 晶子		所 属		観光産業科学部 観光科学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 観光科学科の目標に照らした教育目標の設定 考える力を身につけた学生を育成するための授業の工夫 授業評価等の指摘を取り入れた授業改善 学生からの積極的な意見の聴取 				0.30	<ul style="list-style-type: none"> 目標「沖縄の地域特性に根ざした」に沿って、沖縄文化を考えるうえで重要なアイデンティティについて授業を展開した。 「考える力をつけること」を目的に、観光振興による文化の変容、再構築についてのさまざまな事例報告をもとに授業を展開した。 シラバスと講義内容の不一致を減らす努力をした。 学生とのコミュニケーションに努めた 				
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 科研費取得代表者としての研究運営 科研費、民間助成金等の外部研究費取得の取り組み 学術雑誌・学会における成果発表 学会誌等編集員としての活動 				0.30	<ul style="list-style-type: none"> 海外調査をおこなうとともに、研究地の運営をおこなった 外部研究費に申請をした 日本人類学会で研究発表をおこなった 学会誌編集員の責務を果たした 				
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 学外の委員会等への参画 教員免許更新講習および公開授業の開講 国際貢献への取組 国外他機関における教育支援 				0.10	<ul style="list-style-type: none"> 学外の委員会に参加し、専門分野の発展に努めた 教員免許更新講習の開講は本年度実施しなかった ケニア国立博物館の兼任研究員として動物園設立企画に携わった NHK番組作成への協力をおこなった 				
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 研究科長、副学部長としての業務の遂行 所属部局および学科における委員会での業務の遂行 				0.20	<ul style="list-style-type: none"> 研究科長、副学部長としての業務を遂行した 所属部局および学科における委員会での業務を遂行した 				
進路指導	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 進学・就職指導のためのアドバイス 				0.10	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ生の就職指導をおこなった 4年生担当教員として、前期、後期の説明会の開催をおこなった 交換留学生を韓国に派遣した 				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		荒川 雅志	所 属		観光産業科学部観光科学科
職 名				教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	学科特色科目「ヘルスツーリズム論」、「観光科学演習Ⅰ」「観光科学演習Ⅱ」、「健康保養産業論」「バリアフリー観光論」「癒しと休養の科学」を担当する。リアクションペーパーを活用して講義内の疑問点、質問を次週授業で解決する手法を導入し、当該分野の理解を促進する。 具体数値目標として授業評価アンケート5段階評価の4以上90%以上とする。		0.20	学科特色科目「ヘルスツーリズム論」では目標である4以上の評価95%以上を達成した。「癒しと休養の科学(スパマネジメント論)」は実務家を含むオムニバス形式で構成し、国立大学法人初のSPA実践的講義を実施、内外メディア広報に取り上げられるなど一定の評価を得た。
研究	0.20	(1)基礎研究:「ヘルスツーリズムの健康効果に関する実証研究」(文科省科研費若手B) (2)特化型研究:「海洋療法に関するアジア太平洋島嶼研究センター拠点形成」(民間との共同研究) (3)亜熱帯島嶼科学:「地域資源を活かした健康保養プログラム研究開発」(産官学連携共同研究費)をそれぞれ実施する。 具体数値目標として国際誌1件、国内誌1件、学会発表1件以上を目指す。		0.20	具体的数値目標に掲げた、国際学術誌1件に対し、4件(共著)の達成、国内誌1件に対し1件、学会発表1件に対し1件の達成により、目標を上回る研究成果を挙げる事ができた。
社会貢献	0.20	専門分野に関連する国県、市町村等の振興計画に即した観光振興の取り組みに専門的立場から参画する。また、各種委員会、プロジェクトに携わり、官民との共同研究、委託研究の新規受け入れによる社会連携を果たす。公開授業として「ヘルスツーリズム論」を昨年に引き続き公開する。 具体数値目標として1件以上のプロジェクト新規受け入れ実績を目指す。		0.20	農水省事業委員1件、沖縄県事業委員1件、市町村観光関連委員2件の委嘱を受け、学術的立場から参画してきた。産学連携に関する共同研究2件の継続と、新規にNPOとの共同研究を1件、委託研究を3件締結し、社会連携・貢献に精力的に努めた。
管理運営	0.30	学科長として円滑な学科運営および両学科間の連絡調整に務める。そのほか、(1)全学委員として:アドミッションオフィス委員、学士教育プログラム(URGCC)委員、(2)学部委員として:将来計画委員会、自己評価委員会、広報委員会、予算委員会に参画し、大学全体と学部学科間の調整に務める。		0.30	学科長として効率的な学科運営をおこなうなか、新たな試みとして①学科会議の毎週から月2回開催への効率化、②全学・学部委員および学科内役割分掌等の教員用務の負担公平化に向けて役割平準化表を試作し、教員間の負担公平策を実現した。担当する各種委員会へは定例に出席し円滑な学部学科運営に寄与した。
進路指導	0.10	3年次指導教員として修学指導、就職指導、学生相談等にきめ細やかな指導を実施する。また学科長として各年次指導教員と連携し、全学次学生の履修・生活状況など細かい把握に務める。		0.10	ゼミ配属後のフォローを前期および後期懇談会時に実施した。就学環境の指導や留学、休学についての個別面談を行った。学科全体および特に4年次進路指導のフォローに入り、内定状況の確認と未定者の指導助言に入り、過去最高の就職率達成(98.0%)に寄与した。
	0.00			0.00	
計	1.00	備考		1.00	備考

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	大島 順子		所 属	観光産業科学部 観光科学科	
職 名			職 名	准教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成25年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	<p>①学生との効果的な授業の連絡(予習・復習の呼びかけ)体制強化及び修学のモチベーションを高めることを目的に、担当する科目「エコツーリズム入門」「エコツーリズム論」「環境教育論」においてメーリングリストを開設し、週1回以上活用する。また、学生から授業についての積極的な意見聴取をコメントシートの活用を通して行う。</p> <p>②大学教育センター(FD事業)からの依頼を受け、今年度も授業におけるポートフォリオの試行に取り組む。</p> <p>③研究及び出張等で得られた知見や最新の情報を授業に反映させる。</p> <p>④前期1回JICA研修員を授業に招き、後期1回学生がJICA研修のアクションプラン発表会に出向き、学生とのコラボレーションでの授業を準備から実施に至る協働学習に位置づけ、広く学外の知的資源を活用した教育環境を構築する。</p> <p>⑤現場から学ぶことを重視し、沖縄のフィールド(特に、やんばる地域)を活かしたゼミ活動を農学部との連携及び地域住民の支援を受けて取り組む。</p>	0.30	<p>①目標設定の通り、担当する科目においてメーリングリストを活用したが、加えてe-learning(WebClass)を導入することができた。これまで、e-learningの導入を検討してきたものの、なかなか実施に移すことができなかったが、活用方法にも少しずつ慣れてきたので、今後も積極的に活用していきたい。</p> <p>②「エコツーリズム入門」と環境教育論においてポートフォリオを取り入れることができた。学生へのアンケート調査をもとに現在論文にまとめている。</p> <p>③研究及び出張等で得られた知見や最新の情報のうち、特に「エコツーリズム入門」の授業において反映させることができた。</p> <p>④前期「環境教育論」においてJICA研修員を授業に招き、授業全体の活性化と学生の修学意識の向上を図ることができた。</p> <p>⑤ゼミ活動を農学部との連携及び地域住民の支援を受けて合計12日間取り組むことができた。</p>	
研究	0.30	<p>①特化型研究「特色ある研究」に取組み、文部科学省の科学研究費助成事業「沖縄における持続的なワイルドライフ・ツーリズムの構築」に関する実践的研究(基盤研究C)の研究代表者として研究を遂行する。</p> <p>②林野庁沖縄森林管理署の外部資金(一般入札公募5月～6月)の獲得を目指し、「平成25年度希少野生生物保護管理事業(沖縄島北部)担当者(契約主体は、琉球大学)として、国有林野の利活用における調査研究を行う。</p> <p>③農学部及び教育学部との共同研究として、「やんばる自然資源調査」の学際的な調査及び研究活動を継続して履行する。</p> <p>④上記①～③の成果を関連学会等の査読付き学術誌へ投稿する。(国際1件、国内1件)</p> <p>⑤7月6～7日に開催される日本環境教育学会(滋賀県・びわこ成蹊スポーツ大学)にて、口頭発表を行う。</p> <p>⑥10月2～4日に開催される第4回Wildlife Tourism Australia workshop(オーストラリアNT州)にて、口頭発表を行う。</p> <p>⑦日本環境教育学会編纂「環境教育辞典」への分担執筆に取り組む。</p> <p>⑧豪日ツーリズム学会理事としてオーストラリアのエコツーリズム関連の調査研究活動の情報収集に取り組む。</p>	0.30	<p>①特化型研究「特色ある研究」として、科研費(基盤研究C)の研究代表者として研究を遂行することができた。そして、継続性のある内容とやんばる地域の世界自然遺産登録に向けた研究計画で次年度の科研費に応募した。</p> <p>②林野庁沖縄森林管理署の外部資金を獲得し、希少野生動物種の生息調査に関する研究を行い、国有林野の利活用における問題点及び提案を行うことができた。</p> <p>③農学部との共同研究として、「やんばる自然資源調査」の学際的な調査及び研究活動を継続して履行した。</p> <p>④上記①の成果を関連学会等の査読付き学術誌へ投稿中である。(国内1件)</p> <p>⑤日本環境教育学会(滋賀県・びわこ成蹊スポーツ大学)にて、7月7日口頭発表及び関連集会の企画・運営を行った。</p> <p>⑥第4回Wildlife Tourism Australia workshop(オーストラリアNT州)にて、10月3日口頭発表を行った。</p> <p>⑦日本環境教育学会編纂「環境教育辞典」(7月発行)の項目「エコツーリズム」「エコミュージアム」「白保のサンゴ礁」を分担執筆した。</p> <p>⑧豪日ツーリズム学会理事としての活動には、十分な時間を割くことができなかった。</p>	
社会貢献	0.15	<p>①沖縄県の観光審議会及び自然環境保全審議会等、審議会委員(計4件)として、継続して参画する。</p> <p>②沖縄県の委員会委員(2件)として、継続して参画する。</p> <p>上記の委員会等には、学内の教育研究に支障無く関わることはもちろんであるが、参画することにより入手できる貴重な(学術的及び統計的)情報を教育研究に活かすよう努める。しかしながら、審議会や委員会の再任にあたっては就任の削減に努める。</p> <p>③公開授業(2科目)の提供及び公開講座「やんばるの森から学ぶ私たちの生活」(11月23～24日)の代表担当教員として農学部の教員と共同で開催する。</p> <p>④JICA研修における講義の担当及びカリキュラム作成にあたっての協力を行う。</p>	0.15	<p>①沖縄県の自然環境保全審議会及び振興審議会等、審議会委員(計3件)として、参画した。</p> <p>②沖縄県の委員会等の委員(2件)として参画したが、特に自身の専門性を活かした「沖縄県環境教育等推進行動計画作成検討協議会」では、意見や提案を反映させることができた。</p> <p>③公開授業(2科目)で約10名の一般受講生、公開講座では定員(20名)を上回る受講生を受け入れ、終了後も自主的な学習会への発展に繋がる作業を支援することができた。</p> <p>④JICA研修における英語による講義を合計12時間担当し、カリキュラム作成にあたっての支援(相談、教材選び等)を行った。</p>	
管理運営	0.15	<p>①全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員として、全学で取得した環境マネジメントシステムEA21(環境省認定)の学内事業、特にEA21学生委員会の指導教員として積極的に関わり(ML開設・運営、事業計画作成・実施)、軌道に乗せる。</p> <p>②生涯学習教育研究センター運営委員として、紀要編集委員を務める等センター運営に積極的に関わる。</p> <p>③全学対象の環境総合副専攻の担当教員の一人として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わった。</p> <p>④セクシャルハラスメント相談窓口として、当事者が相談しやすい環境づくりを図る。</p> <p>⑤副学長諮問委員会「ハラスメント規程委員会ワーキンググループ」「ESD推進ワーキンググループ」への継続参画。</p>	0.20	<p>①全学エコロジカルキャンパス推進委員会委員として、主に学生委員会の担当教員となり、学生活動(活動拠点となる教室の整備、大学訪問や研修の企画・運営・引率)の支援にあたった。</p> <p>②生涯学習教育研究センター運営委員として、公開講座の担当及び紀要編集委員を務め、センター運営に積極的に関わった。</p> <p>③全学対象の環境総合副専攻及び琉球学副専攻の担当教員として科目担当及び副専攻の効率良い会議運営に携わった。</p> <p>④セクシャルハラスメント相談窓口であるが、全学的に窓口の存在が周知不足と感じている。</p> <p>⑤副学長諮問委員会「ハラスメント規程委員会ワーキンググループ」への参画で多くの時間が割かれた。</p>	
進路指導	0.10	<p>・指導教員である4年次学生やゼミ生及び修士課程学生に対し、進路に関する情報提供及び適切な進路指導と就職支援を行い、就職率の向上(90%以上)を目指す。</p>	0.05	<p>・指導教員である4年次学生やゼミ生及び修士課程学生に対し、進路に関する情報提供及び適切な進路指導と就職支援を行った。就職率の向上(90%以上)につながった。</p>	
	0.00		0.00		
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		片岡 英尋	所 属		観光産業科学部 観光科学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	昨年度に続き1年次生担当教員として、入学直後の学生が滞りなく学生生活を始められるように指導を行う。担当科目においては、思考能力を養える講義を行う。		0.30	左のとおり実施した。			
研究	0.30	科研費による研究最終年度であり、成果物を仕上げる。 那覇市の観光統計「那覇市の声」の受託の可否の検討を通じて、受託契約の改善に取り組む。		0.30	天候不順により御島嶼地域への渡航がはかどらず、研究期間の延長を申請し受領されている。成果物3点につき研究分担者の西村客員教授と調整中である。			
社会貢献	0.10	うるま市の中小企業条例制定に関する検討委員会の委員長として、本年度の条例制定を目指す。		0.10	左記載の「うるまし中小企業基本条例」が制定され。公開されている。			
管理運営	0.10	学生生活委員として、全学的な学内での学生生活に関する指導助言を行う。		0.10	左のとおり、実施した。			
進路指導	0.20	演習4年次生に、留学等による休学から復学した学生が多い為、進路指導において適切なアウトプレースメントに工夫を要する。この点に関して適切な指導を行い、全員んが希望の進路に勧めるよう助力する。		0.20	左のとおり実施した。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1)本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	波多野 想		所 属	観光産業科学部 観光科学科	
職 名	准教授				
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	平成25年度、学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」、選択科目として「産業観光論」「観光景観論」を提供する。また大学院においては「観光資源マネジメント特論」を担当する。 各科目において、Problem Based Learning(PBL、問題解決型授業)の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養うことを目標に、知識の吸収に留まらぬ授業を実施する。 また研究室に置ける活動をより充実させるため、週一度夜間に読書会を開催する。大学院教育においても、独自に大学院ゼミを週一度開催し、大学院生および大学院進学希望者の研究能力の向上に努める。	0.30	学部においては、必修科目として「観光地理学」「観光学演習Ⅰ」「観光学演習Ⅱ」を開講した。「観光地理学」においては、Problem Based Learning (PBL、問題解決型授業)の手法を取り入れ、思考能力や問題解決能力を養う授業を心がけた。「観光学演習ⅠⅡ」においても同様であるが、さらに、直野湾市商工会主催の「直野湾市まちづくり・地域活性化プレゼンテーション大会」への参加をゼミ生に呼びかけ、実践力を養うための指導を徹底した。 大学院科目「観光資源マネジメント特論」では、北九州における現地実習を実施した。 研究室における活動の充実化については、3つのテーマ別勉強会を設置し、参加学生とともに運営した。大学院教育においても、独自に大学院ゼミを週一度開催し、大学院生および大学院進学希望者の研究能力の向上に努めた。	
研究	0.25	島根県(教育庁文化財課世界遺産室)委託の研究プロジェクト(「東アジアの鉱山比較研究」)を本年度より4か年度にわたり受託する(受託先は観光科学研究科とする)。本プロジェクト実施において、海外調査(台湾)を夏期休業中および春休期中に行う。 研究論文については、審査付き論文1件、国際会議論文1件以上を目指す。	0.15	島根県(教育庁文化財課世界遺産室)委託の研究プロジェクトに関しては、9月および12月に現地(台湾)調査を実施し良好な結果を得た。さらに2014年2月に、石見鉱山世界遺産センターにて調査報告を行い、同時に島根側の研究者と意見交換を行った。本年度の成果物を2014年3月に先方へ引き渡すこととなっている。 個別の研究論文については、今年度半ばに研究室として新たな研究プロジェクト「景観の移動性」を立ち上げ、その理論や方法論の構築、海外共同研究者との関係構築を中心に作業を進めた。その基礎研究の一つとして、2014年3月の学会で論文発表をすることとしている。	
社会貢献	0.15	①ゼミ活動の一環として昨年度より実施している中城における地域活性化プロジェクトに関して、本年度は役場や地域住民と連携のもと、より具体的に活動を進める。具体的には、中城村新堀区および奥間区を対象としたGreen Mapのデザイン、印刷、発行を目指す。 ②台湾・金瓜石鉱山の遺産保護活用に寄与するため、上記研究を進めると共に、シンポジウムの開催等に積極的に関与する。また台湾新北市立黄金博物館諮詢委員会に出席(年1~2)する。 ③「南城市尚巴志活用マスタープラン策定業務」検討委員会の委員として、年度内に教回、委員会に出席する。	0.20	①ゼミ活動の一環として昨年度より実施している中城における地域活性化プロジェクトに関して、中城村新堀区および奥間区を対象としたGreen Mapのデザインを完成させた。さらに、新たな活動拠点として選択した安里区と伊香堂区では、区長や住民の協力のもと、Green Map作成のための基礎データとなる「イメージマップ」の収集を積極的に行い、学生とともに分析を進めた。 ②台湾・金瓜石鉱山の遺産保護活用に寄与するため、台湾新北市立黄金博物館の学芸員と共同調査を実施した。また博物館の研究テーマなどについて、個別に対応した。 ③「南城市尚巴志活用マスタープラン策定業務」検討委員会の委員を務めた。委員会は、以下の日程で実施された。 ・第1回 平成25年3月21日 14:00-16:00(南城市役所大里庁舎) ・第2回 平成25年8月13日 13:00-16:00(南城市役所大里庁舎) ・第3回 平成25年11月20日 15:00-17:00(南城市役所大里庁舎) ・第4回 平成26年2月20日 15:00-17:00(南城市役所大里庁舎) ④「勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画」策定委員会の委員を務めた。委員会は、以下の日程で実施された。 ・第1回 平成25年5月29日 14:20-17:00(うるま市役所本庁舎) ・第2回 平成25年8月9日 14:00-17:00(うるま市役所本庁舎) ・第3回 平成25年11月13日 15:00-17:00(うるま市役所本庁舎) ⑤「沖縄県名勝調査検討委員会」の委員を務めた。委員会および現地視察は、以下の日程で実施された。 ・第1回視察 平成25年10月21日 8:30-17:15(北部視察) ・第2回視察 平成25年12月27日 8:30-17:15(南部視察) ・第1回委員会 平成25年10月29日 14:00-17:00(沖縄県南部合同庁舎) ・第2回委員会 平成26年2月10日 14:00-17:00(沖縄県南部合同庁舎) ⑥沖縄総合事務局開発建設部景観委員会委員および事業景観アドバイザーを務める(～平成27年3月31日)	
管理運営	0.20	①広報委員として、ホームページの更新、学生募集パンフレットの作成などを通じた広報体制の改善。 ②図書館運営委員として、図書館運営の改善。 ③国際交流委員会委員として、国際交流の促進に尽力する。個人的には、台湾の大学と学際間研究協定の締結に努力する。	0.20	①広報委員として、学生募集パンフレット作成した。 ②附属図書館運営委員および附属図書館学術情報基盤資料選定委員として、データベースやジャーナルパッケージの削減対応を行った。 ③国際交流委員会委員として、特にJICAとの包括連携協定の締結に向けた作業を行った。また、台湾の大学と学際間研究協定の締結に関する作業を進めた。	
進路指導	0.10	①1年次指導教員として修学や学生相談等にきめ細やかな指導を実施する。 ②ゼミ生を中心に、自己アピール能力、コミュニケーション能力および実践力の向上 ③ゼミ生を中心に、履歴書等の添削を行う。	0.15	①1年次指導教員として、基礎演習などの必修科目を通して、細やかな指導を実施した。 ②ゼミ生にはゼミ活動を通じて中城村内の集落におけるイメージマップ調査をさせ、その分析結果を、他の研究室の学生など前で発表してもらうなど、積極的に他人とコミュニケーションをとり、人前でのプレゼンテーションを通して自己アピール能力の向上に努めた。 ③進路指導(就職および大学院進学)において、将来の方向性の相談とともに、エントリーシートや研究計画書の書き方に関して指導を実施した。	
	0.00		0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は削って使用してください。 ・除役業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。 学内公表に同意しない。